



ポーランドの2025年大阪・関西万博への参加の一環として、Unsoundはポーランド投資・貿易庁（PAIH）との連携のもと、日本初となるフェスティバルを大阪で開催します。日本のパートナーとの共催によって、3日間にわたるイベントが実現します。

以下が、メインプログラムの詳細です。

---

## 【プログラム概要】

### 9月5日(金) - VS.

公演日時: 2025年9月5日(金)※OPEN / START時間は近日発表

会場: [VS.](#) ([MAP](#))

チケット: 近日販売開始

出演者:

- **Keiji Haino plays Baschet**
- **Robin Fox presents TRIPTYCH – a homage to Stanisław Ostoja-Kotkowski**
- **Włodzimierz Kotoński Remixed by Jim O'Rourke & Eiko Ishibashi**

Unsound Osakaの初日は、VS.で開催中の展覧会「sakamotocommon OSAKA 1970/2025/大阪/坂本龍一」とのコラボレーションとして実施されます。電子音楽および実験音楽の先駆者たちに敬意を表し、過去と未来をつなぐ一夜となるでしょう。

この日のハイライトとして、灰野敬二が、1970年の大阪万博のためにフランソワ・バシェ（**François Baschet**）が制作した《バシェ音響彫刻》を演奏します。この楽器は、坂本龍一が18歳のときに万博を訪れた際、強い影響を受けたとされるもので、灰野によるバシェの演奏は今回が初披露となります。

続いて、オーストラリアのロビン・フォックス（**Robin Fox**）が、レーザーと音を駆使した作品《Triptych》を発表。本作はオーストリアのアート／テクノロジー／社会をつなぐ世界的なクリエイティブ機関「ARS Electronica」より富田勲特別賞を受賞しており、ポーランド系オーストラリア人でありレーザーアートの先駆者でもあるスタニスワフ・オストヤ＝コトコウスキ（**Stanislaw Ostoja-Kotkowski**）の作品に着想を得たものです。レーザープロジェクターによって空間そのものを変容させる、“視覚と音による時空の彫刻”とも言えるこの作品は、記録や再現が不可能な、その場限りの体験となります。

オープニングには、ジム・オルーク（**Jim O'Rourke**）と石橋英子が登場し、ポーランドの作曲家ヴウォジミエシュ・コトニスキ（**Włodzimierz Kotoński**）の楽曲のライブリミックスを披露。コトニスキは20世紀ポーランド音楽の中でも特に急進的な存在であり、テープ音楽、ライブエレクトロニクス、シンセ音楽、コンピュータ音楽の先駆者として知られています。出演する二人にとっても特別な存在である作曲家の作品に、新たな解釈が加えられます。



## 9月7日(日) - 大槻能楽堂

公演日時: 2025年9月7日(日) OPEN 17:15 / START 18:00

会場: [大槻能楽堂 \(MAP\)](#)

参加方法: [入場無料](#) ※ご参加いただくには、[ZAIKOでの登録が必須となります。](#)

出演者:

- Antonina Nowacka
- Raphael Rogiński plays John Coltrane and Langston Hughes
- Jim O'Rourke, Eiko Ishibashi & Piotr Kurek

1935年に開館した大槻能楽堂。この日は、その静謐な空間を活かしたコンサート・シリーズの舞台となります。プログラムには、世界的に高く評価されているポーランド人アーティスト3組が登場し、そのうちの1組は、石橋英子とジム・オルーク(Jim O'Rourke)との特別な初共演を披露します。

最初に登場するのは、アントニーナ・ノヴァツカ(Antonina Nowacka)。時間の感覚を引き延ばし、言語・音・霊性の境界を曖昧にする「見えない世界へのポータル」と形容される、彼女の卓越した歌声を中心に展開されます。これまでに発表されたソロ作品『Sylphine Soporifera』や、ソフィ・バーチ(Sofie Birch)とのコラボレーションアルバムでも高く評価されています。

続いて登場するのは、ポーランドの作曲家／演奏家／即興音楽家 ラファエル・ロジンスキー(Raphael Roginski)。フォークやブルース、ジャズ、クラシックなどを横断しながら、ソロ演奏と録音で世界で最も独自性のあるギタリストのひとりとして評価されています。Unsound Osakaでは、ジョン・コルトレーン(John Coltrane)の作品をスローダウンし、ラングストン・ヒューズ(Langston Hughes)の詩とともに再解釈したアルバム『Plays Coltrane and Langston Hughes』の楽曲を披露します(本作は2024年にUnsoundから再発され、高い評価を受けています)。

ポーランドのマルチな演奏家／作曲家 ピオトル・クレク(Piotr Kurek)は、ソロ作品『World Speaks』やUnsoundからリリースされた『Smartwoods』などで知られていますが、他の多くのアーティストとのコラボレーションでも知られます。Unsound Osakaでは、そのコラボレーションの精神を携え、世界でも類を見ないアンダーグラウンドの象徴的存在であるジム・オルーク(Jim O'Rourke)と石橋英子と共演します。石橋は多彩なソロ作品のほか、濱口竜介監督のアカデミー賞受賞作『ドライブ・マイ・カー』や続編『悪は存在しない』など映画音楽も手がけており、ジム・オルークはGastr Del Sol、Stereolab、Wilco、Sonic Youthなどと共演歴があるほか、フックに富んだロックから繊細なミュージック・コンクレートまで幅広いソロ作品を発表しています。

このプログラムは、「Poland. Heritage that Drives the Future(ポーランド。未来を躍動させるレガシー)」をテーマとしたポーランド・パビリオンのプログラムの一環として、ポーランド投資・貿易庁が主催する「ポーランド文化週間」の一部として実施されます。

---

## 【お問合せ】

### プレスお問合せ先:

Unsound: info@unsound.p

### プレスキット:

[https://drive.google.com/drive/folders/13-yE\\_9xDMAIO1yA9nepJFYy3SAM7Zuds?usp=drive\\_link](https://drive.google.com/drive/folders/13-yE_9xDMAIO1yA9nepJFYy3SAM7Zuds?usp=drive_link)

### チケットお問合せ先:

VS.: <https://vsvs.jp/contact/>

Creative Center Osaka: info@circus-soaka.com

### その他お問い合わせ先

Unsound: info@unsound.pl

### WEBSITE・SNS:

WEBSITE (Unsound Osaka): <https://www.unsound.jp>

INSTAGRAM (Unsound Osaka):

<https://www.https://www.unsound.jp.instagram.com/unsoundfestival/>